

私とダイバーシティ

I and diversity

中村ひとみ (なかむら ひとみ)

ジェイアール東海コンサルタンツ(株) 土木事業部 土木管理部

1. はじめに

私は、鉄道構造物の設計照査を行っております。一言で鉄道構造物の設計とは言っても、橋りょう、高架橋、トンネル、土工設備、駅設備、落石などの防護設備、耐震補強など多岐にわたっています。設計業務では、地盤と構造物を一体としたモデル化や鉄道営業線近接施工における地盤変位予測など地盤と深くかかわっています。

地盤工学会はダイバーシティが進んでおり、楽しく拝見しておりましたが、構造設計を担当する私がかかさか地盤工学会に執筆するとは思いませんでした。

2. ダイバーシティとの出会い

私とダイバーシティとの出会いは、生活の転換期となる出産・育児から仕事に復帰した直後に参加した「Lunch Café D.D. (土木学会教育企画・人材育成委員会ダイバーシティ推進小委員会主催、土木技術者女性の会共催)」でした。Lunch Café D.D.は、土木学会全国大会の昼休みに土木分野におけるダイバーシティ推進に関心を持つ方が集まり、「土木分野のダイバーシティについて気軽に話しましょう」という企画でした。参加者は、同じ土木系であってもその職種・職場や立場も様々であり、私が普段接しない方々と話をする機会を得て、生活環境、働き方など、異なる背景の中で、どう共存して働いていくのかを考えるきっかけを与えてもらいました。

3. 私の生活の変化

私は、5歳の息子と夫の3人で生活しています。妊娠・出産・子育てというライフイベントにより、仕事中心から大きく変化した私の生活について紹介します。

3.1 妊娠から出産までの生活

出産前は、設計者として、鉄道構造物の設計や線路内外の測量・地質調査の現場責任者を担当し、残業も多く仕事中心の生活でした。休日は、体を休めるためゆっくり起床し、平日の分までまとめて家事をするという生活でした。体力・健康に自信があった私は、妊娠しても何ら変わりなく生活できるのだらうと考えていましたが、実際には全く違いました。

妊娠後は、外業、残業などを控えた業務内容に切りかわり、体に負担をかけないように過ごしていました。ところが検診に行くと、会社を明日から休むように、「子供

の命を一番に考えなさい」と医師に説教されて診断書を渡され、予定よりも3か月早く会社を休むことになりました。その後、自宅でのんびり過ごしていたにもかかわらず、緊急入院となり、私は体を動かしたい気持ちを抑えながらベッドの上で約2か月寝て過ごし、無事息子と対面することができました。

このように、私の生活はこれまでのワークから、急激にライフへとシフトしました。

急きょ仕事を引き継ぐことになったにもかかわらず助けて頂いた上司や同僚、会社、子供の命を第一に考えて頂いた医師に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

3.2 仕事復帰への第一歩、保育園探し

子育てをしながらの保育園探しが始まりました。短時間勤務は子供が3歳までという会社の規定もあり、定時で退社して迎えに行くまで預けることができる保育園は、現在住んでいる付近で1箇所のみでした。名古屋市内においてもやはり保育園事情は厳しく、入園可能な人数は年齢が上がるごとに減るため、0歳から保育園に預けるしかなく、なんとか入園が確定して安堵したことを思い出します。入園後の保育は、保育園の環境に子供を慣れさせるため、午前、おやつ後の15時、夕方と迎えに行く時間を少しずつ遅くします。このならし期間のため、4月からの復帰予定が、5月の職場復帰となりました。

3.3 仕事と子育ての生活

息子が0歳の時は短時間勤務、1歳の誕生日を迎えた後にフルタイムで働いています。

息子が急に病気になった場合は、近所に住む義父母に預かってもらいます。しかし、高齢と孫疲れからなのか、1か月程義父母共に寝込んでしまったこともあり、今後はあまり負担をかけることはできません。

保育園への送りは夫婦2人で、保育園への迎えは残業を控えている私が主に行きます。平日息子と一緒に過ごす時間は4時間程で、夫は息子の就寝前後に帰宅することが多いため、息子と夫ともに「いつも一緒にいたい」と寂しがります(図—1)。休日は家族で過ごしますが、平日一緒に過ごす時間が少ない夫と遊ぶことが楽しみのようで、夫はクタクタになるまで遊ばされ、時には筋肉痛で体を痛めながら過ごしています(写真—1、写真—2)。

会社では、朝やるべきことを書き出し、時間内に効率良く業務をこなすにはどうすべきか、優先順番を決めて考えながら行っています。

平日	休日
起床	5:00
保育園準備, 私の自由時間	
夫起床, 朝食・夕食準備	6:00 起床
子供起床, 朝食	6:30 私の自由時間
	7:00 朝食準備
通園・通勤	7:40 7:30 朝食
保育園送り	8:00 8:00 洗濯, 掃除
入社	8:50 子供と過ごす時間
始業: 設計照査	9:00 (公園で野球など)
業務資料作成	11:30 昼食準備
昼食	12:00 12:00 昼食
午前中の続き	13:00 13:30 家族で買い物
退社	17:40
保育園迎え	18:40 18:30 夕食準備
帰宅, 洗濯, 夕食準備	19:10 子供も食事のお手伝い
夕食	19:30 19:30 夕食
片付け・明日の夕食準備	20:00 20:00 片付け・明日の夕食準備
入浴	20:30 20:30 入浴
子供と過ごす時間(話, 絵本)	子供と過ごす時間(話, 絵本)
就寝	21:30 21:30 就寝

図-1 平日と休日のタイムスケジュール

4. ダイバーシティに思うこと

土木を専攻した大学時代のクラスでは、女性は私1人、就職した部署においても女性技術職初の出産でした。現在では、弊社においても土木に携わる技術系女性社員は増えており、これからライフイベントを迎える女性も多くなります。

女性のライフイベントに対応した働き方の事例は少なく、私の場合は、予定よりも3か月前倒しとなり、急な対応ではありましたが、周りの方に助けて頂き、なんとか乗り切れました。私の経験から、ライフイベントを迎えた女性が、仕事と生活を両立させて働き続けるためには、次のことが必要ではないかと考えます。

- ・妊娠後からの働き方などを上司・同僚皆で事前に話し合いをして理解を得ると共に、困り事や悩み事の対処事例を蓄積して共有する。
- ・子育ての制約がある中でも、重要度の高い仕事ができる働き方を模索して個人のやる気を高める。
- ・女性側も周囲への感謝の気持ちを忘れず、可能な範囲内で自己を高めていく。

男女共同参画から始まり、対象範囲が拡大したダイバーシティですが、未だに女性の生き方・働き方のように取り上げられていることが多いと感じます。しかし、若い世代では共働きが多くなり、仕事だけではなく、仕事以外にも大事なことをしなければならないのは、女性に限らず男性側にも必要となっているのではないのでしょうか。このように、多様な人材とその個性を価値として活かすダイバーシティは、社会的変化も踏まえて、今後ますます重要であると感じています。



写真-1 野球大好きな息子



写真-2 家族で根尾谷断層

5. おわりに

仕事と育児を両立しながら生活できることの喜びがある反面、出産前のように働くことができず、もっと働きたいと思うことがあります。そのような時、同業ということもあり、仕事に対しても理解ある夫は、「今後私がどのように働きたいのか、働いていくべきか、また、仕事以外のことをどのように取り組むべきか」について耳を傾けてくれます。話し合うことで気持ちが落ち着き、明日また頑張ろうという気持ちになります。また、近所に住む義父母は、仕事と子育てが大変であろうと美味しい手料理を届けてくれます。こんな身近なところにも「ダイバーシティ」の応援団がいます。

近い将来、ダイバーシティという言葉が聞かなくなる位に、当たり前前の社会となるといいですね。